

令和6年度の具体的な学校経営目標・計画（最終達成状況）

＜評価基準＞		A：全て達成 B：全てのうち半数程度達成 C：Bに達しない			岡山県立瀬戸高等学校			
学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
①授業改革をより一層進め、ICT機器を効果的に活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを实践することで、授業が自分事となる学びを実現する。 (尚学)	教務課	・校内の授業公開期間を中心に、協同学習やICT機器の活用等により、生徒につけたい6つの力の視点に立った、生徒自らが主体的に学ぶ授業づくりを实践する。	・学校改善アンケート(生徒対象)の「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が88%以上(前年度85%)、「授業はわかりやすいですか」の質問において肯定的評価が85%以上(前年度82%)になる。 ・教員の一般的な端末の活用指導力(授業でどの程度端末を活用させてるか)を県内の上位1/3以内にす。 (昨年度21/53)	・6/10～6/28の授業公開週間を設け、教科を超えて組を作り(3、4名)、授業を見せ合う機会をつくった。 ・授業公開に抵抗感はなくなりつつあるが、授業改善については各教科担当の裁量に任されている。 ・教員の一般的な端末の活用指導力(授業でどの程度端末を活用させてるか)について、14/53 で順位を上げた。	B	・10/28～11/15の授業公開週間に生成AIを用いた授業の参観を中心に、授業見学の機会をつくった。 ・学校改善アンケートの「授業や補習に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価は82%、「授業はわかりやすいですか」の肯定的評価は80%と昨年度より多少下がった。 ・教員対象の学校改善アンケートにて、「PCやプロジェクターなどのICT機器を必要に応じて活用し、授業改善に努めていますか」の問いの肯定的回答が 83% であった。	B	B
	進路指導課	・生徒が自走できるように、授業やひたぶるタイム等、主体的に取り組む活動を通して、確かな学力と考える力・表現する力を育成できるように計画・立案・運用し、進路保障の一助とする。	・普段の授業時間の中で、生徒の主体的活動が展開される場面を意識的に設ける。 ・キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進する。 ・各学期で多様な授業実践を公開し、意見交換を行う。	・各年次、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 ・キャリア・デザイン室によるD☆ラボ、授業改革の研修会や近隣中学校への探究メンター企画、実施が進められた。 中学校への出前授業が好評である。 ・1学期に授業実践の公開をすすめた。	B	・中間期と同様に、新教育課程に応じた生徒の主体的活動が試みられた。 ・Classiの動画学習パックなどを活用して、校外模試対策などを軸に家庭学習の充実を試みた。 ・キャリア・デザイン室を中心に、学びを自走させクリエイティブな生徒を育てる授業改革を推進することができた。 ・キャリア・デザイン室により、クリスマスのセト☆フェスの第2部(午後)に外部の社会人・生徒を交えた教員研修を実施した。 ・2学期にも授業実践の公開をすすめた。	B	
	1年次	・授業を大切にし、予習・授業・復習のサイクルを確立し、学習習慣を習得させる。 ・課題・提出物を必ず提出させる。	・学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 ・学習実態調査の家庭学習時間が平日3時間、休日4時間確保できることを目指す。 ・学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が70%以上になることを目指す。	・1学期振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の肯定的回答が71.9%、「課題・提出物を必ず出す」の肯定的回答が86.3%であった。課題提出の指導について、各教科、年次全体でしっかり対応し、課題提出状況は概ね良い。 ・4月学習実態調査の結果は平日97.7分、休日131.5分、年次独自にGW中に実施した学習時間調査は126分(5/3～6)であった。 高校生になるための学習習慣の基礎は身に付いたように思えるが、年次目標にはまだ足りない。家庭学習の量が増えるような仕掛けを継続的に考えていく必要がある。	B	・2学期振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にできましたか。」の肯定的回答が53.4%、「課題・提出物を必ず出す」の肯定的回答が79.7%であった。 学校改善アンケート「授業や補習に積極的に取り組んでいますか。」の肯定的回答が84%ではあったが、1学期と比べて数値が減少しており、入学当初の緊張感は薄れてきている。 課題提出については、各教科で粘り強く対応しており、概ねの生徒が必ず提出するという意識はついてきた。 ・9月の学習実態調査の結果は平日97.0分、休日138.4分であり、前回と比べて微増となった。 少しずつ学習時間を伸ばしている層と逆に減らしている層の二極化が見えつつある。 授業や課題の強弱をつけることで対応したい。	B	

	2年次	- 進路を見据えた目標を設定し、学習サイクルを回す。 - 課題・提出物を必ず提出させるよう指導をする。	- 学期毎の振り返りシートによる調査「進路を見据えた目標を設定し、学習サイクルを回すことができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。(1年3学期 52.2%) - 学習実態調査の家庭学習時間が1日平均3時間確保できることを目指す。(1年3学期 86分) - 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上になることを目指す。(1年3学期 70%)	「進路目標を設定」の肯定的回答は67.1% 「学習サイクルを回す」の肯定的回答は49% 「家庭学習時間」は97.1分 - 目標の設定はできても、学習意欲につながっておらず、学習時間の不足は顕著である。さらなる対策を講じる必要がある。	C	「進路目標の設定」は70.3%。 「学習サイクルを回す」は45.8% - 学校改善アンケート「宿題や提出物は期限を守って提出できていますか。」の肯定的評価が66%であった。 - 目標設定が高すぎたのであろうが、昨年よりよくない結果が出ているものもある。次年度に向けて、学修意欲の向上に力を入れていきたい。	C
	3年次	- 授業を第一に、予習・復習など、優先順位を考えて自走できるように工夫する。 - Classiの学習記録を利用して学習実態調査を実施し、時間や期限の管理を自分で行えるように目標や計画を立てる機会を多く設け、自己管理ができるように指導する。	- 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「授業を第一に、予習・復習を徹底的にすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が75%以上を目指す。(2年3学期 70.3%) - 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「進路目標を決定し、自ら考えて行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が80%以上を目指す。(2年3学期「進路目標を見つけ、プラスαの学習を1つ始めることができましたか。」 59.4%)	- 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「全てのことを自分事として考え、授業を第一に予習・復習を徹底的に行い、毎日家庭学習をすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答は77.0%であり、3年次生として今まで以上に学習に力を入れることができたようである。 - 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「進路目標を決定し、自ら考えて行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答は90.3%であった。また、「できなかった」と回答した生徒は0人で、各自の希望進路の実現に向けて、探究活動を続けたり、情報収集に努めたり、教員と面談を重ねながら、自ら行動することができた。	A	- 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「全てのことを自分事として考え、授業を第一に予習・復習を徹底的に行い、毎日家庭学習をすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答は77.1%であり、1学期に続き2学期も学習に力を入れることができたようである。 - 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「進路目標を決定し、自ら考えて行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答は95.0%であり、1学期を上回る結果になった。また、1学期同様「できなかった」と回答した生徒は0人で、各自の希望進路の実現に向けて、入試や受験勉強に臨むことができています。	A
	教育DX	職員研修や総合的な探究の時間において生成AI活用ガイダンスを実施し、ICT機器を効果的に実践できる環境をつくる。	- 教員間でも生成AIについての認識が異なり、生徒への指導についても不安がある。ガイダンスなどを通して、生徒の質問やプロジェクトに対して生成AIを使ってサポートできる。 - 独自アンケートで生徒・教員への「AIを活用することができる」の質問項目において年度初めから肯定的評価が30%上昇する。	ほとんどの教職員が生成AI研修に参加し、AIへの理解が深まった。時間外在校時間の減少も見られた。生徒については全年次を対象にした生成AIや生成AIを用いた探究学習プログラムを実施し、情報収集などのスキルを向上させた。	A	- 年間通して計画実施した研修は10回で、生成AIやDXについての共通認識を持つこと、生徒への指導について不安が少ないように取り組んだ。 - 本年度3回実施したデジタルリテラシーについての質問調査では、デジタルコンピテンシーに関する自己効力感の数値が統計処理をした結果有意な差がみられた。 - 今後も全教職員への連絡を密にし、透明性のある運営を心掛けていきたい。	A

<評価基準> A：全て達成 B：全てのうち半数程度達成 C：Bに達しない

岡山県立瀬戸高等学校

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
②生徒が主体的に行動	教務課	生徒主体のオープンスクールを企画・運営することで、生徒の主体性を養うとともに、	- 生徒主体のオープンスクールを継続し、生徒による本校の魅力発信に挑戦する。 - オープンスクールの中3生参加者数を	中学2年生も対象にして、保護者も交えて、オープンスクールを無事に実施した。生徒会による学校紹介、教員か	A	生徒主体のオープンスクールや学校説明会を滞りなく行うことができた。これらの行事やブログ等の発信において、普段の学校	A	A

し、自らの成長を実感できる取組を進め、将来は自立した社会の構成員として活躍する素地となる、より良くなるようとする力の育成を行う。 (自主)		生徒による本校の魅力発信に繋げていく。	320人以上にする。(昨年、中3生08参加者312名、学校説明会参加者中3生26名、中2生54名)	らの学校紹介、総探発表、高校生との交流会、部活動見学等、本校生徒の活動を前面に打ち出した内容であった。 ・本校生徒ものべ120名が参加した。中3生徒参加者346名、中2生徒参加者191名、保護者124名であった。 ・9月実施の学校説明会申込者は、中3生25名、中2生15名、保護者のみ2名、同伴の保護者23名である。	生活の状況や部活動、学校行事など瀬戸高校の魅力を発信し続けていきたい。 ・オープンスクール・学校説明会では生徒が主体となったものにできたが、学校説明会でもう少し中学生・保護者が参加する手立てが望まれる。	
	生徒課	・生徒会主催の学校行事で、生徒主体の活動を実践させるとともに、生徒自身が計画・運営し、全校生徒で行事を盛り上げることができるよう支援する。 ・生徒から要望の出ている期間中のスマホの全面許可など、課題を投げかけ、できるだけ生徒主体で取り組みができるように指導していく。	・瀬戸高祭アンケートの満足度において、全体的に「よい」の数値で95%前後(昨年度97.5%)の満足度を維持する。Chromebookの活用により多数のアンケート結果で収集し分析する。 ・課題に対して、生徒主体で検討を重ねさせ、主体的に活動する生徒会(執行部)をめざす。	・生徒会執行部、総務をはじめ、委員会活動も生徒が主体的に議論し、実行した。教員の支援も大きい、自分たちで考える態度、より良くなるようとする力は、成長が見られた。	瀬戸高祭アンケートの満足度において全体的に「よい」の数値が97%であり昨年同様の満足度を維持することができた。例年以上に、生徒会執行部がよりよい学校祭にするために会議を重ね、主体的に活動することができた。	A
	進路指導課	・個々の進路実現に向けて、様々な活動に自走できるよう、情報や機会の提供を面談・研修会などで進めていく。 ・新しい入試制度に対して、最新の情報収集と情報提供を行う。	・面接週間時の内容ポイントを学年団で共有し、共通理解を図りながら充実した面談が出来るようにする。 ・3年次生はひたぶるタイム等の成果を踏まえ、個人の進路選択について視野の拡大・深化をはかり、個の学びに4月当初の早い時期から繋げていく。 ・進路検討会等の機会を利用して、教員研修の時間を学期に1回以上持つ。 ・学校改善アンケート(生徒)における進路情報提供に関する満足度を昨年度(82%)より高める。	・面談時の内容などについて各年次毎、各学期で共有が図られた。 ・1学期に外部講師による座談会などを行い、個に応じた進路学習をすすめた。 ・第1回進路検討会で令和5年度卒業生の進路状況と昨今の入試事情の研修講座を実施した。 ・進路意識の向上が生徒自身に認識させることが出来る具体的な工夫を検討したい。	・面談時の内容などについて、学年で共有が図られた。その結果、生徒の学校改善アンケートにおける面談についての満足度が87%と前年度から3%増であった。 ・3年次の個人の進路選択について、面談等により4月当初の早い時期から繋げていく事が出来た。 ・学校改善アンケート(生徒)における進路情報提供に関する満足度は昨年度より3%増の85%であった。各年次の通信や進路LHRなどでさらに充実を図っていく。 ・第2回進路検討会で今年度の入試の動向と新課程入試の情報共有を研修として実施した。 ・国公立大学の年内入試を積極的に勧め昨年度9名から20名に合格者が増えた。 ・新教育課程の情報に関する共通テストに関する情報の収集と共有を進めた。	A
	厚生課	・保健委員会や環境・防災委員会の充実した活動を実施する。 ・生徒自らが、健康や防災に関心を持ち、様々な体験を通して学んでいく姿勢を育てる。	・各種委員会がそれぞれの立場で、健康や防災について各種研修会などに参加し、機会があればその成果を発表したい。 ・歯科治療率などを向上させていく。 ・性教育か性の多様性などについてのLHRを計画する。	・保健委員会、環境・防災委員会は各方面で活動ができています。 ・歯科治療率向上をめざして、引き続き生徒に促していく。 ・健康LHRは性の多様性出前講座を実施した。	・保健委員会、環境・防災委員会は年間を通じて校内での活動を滞りなく行っていた。保健委員会は学校安全保健委員会での発表も行っている。 ・校内歯科治療率は31.5%(県平均35%)であったが、次年度は更に向上させ、生徒自ら、健康管理を行えるようにしたい。 ・健康LHRは『性の多様性』をテーマに性の多様性を学んだ。よりよくなるようとする力を育む一助とできたと思う。	A

1 年次	- 部活動や学校行事に主体的に参加させる。 - 探究活動などを通して、地域や社会、世界に関心を持たせ進路意識を育成する。	- 学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 - 生徒たちが主体的に企画し学級活動を行う機会を、学期に一度は与える。 - 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が70%以上になることを目指す。	1学期の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の肯定的な回答は92.8%と非常に高いものであった。部活動等で活躍する1年次生の姿もよく見られる。また、初めての瀬戸高祭を通じて多くの生徒が他者とのかわり方を考え、各部門のリーダーが中心となって、それぞれの部門の内容をやり遂げることができた。 4月に仲間作りLHRについて、本番までの準備・話し合い、そして当日の運営までを各クラスのHR委員を中心に実施した。	A	2学期の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の肯定的な回答は91.2%、学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の肯定的な回答が87%と高いものであった。次年度は、色々な学校行事において中心的な役割を任されることも増えると思われるが、しっかりとやり切り責任を果たすことを期待する。勿論、年次団も継続的にサポートを行う。 11月に年次全体のLHRを生徒・先生で企画し、1年バレーボール大会を実施した。 - 学校改善アンケート「総合的な探究の時間に積極的に取り組んでいますか。」の肯定的な回答が86%であった。今後も興味関心の高いものをより深める探究活動を通じて、(探求テーマに関わらず)進路への意識を高めてもらいたい。	A
2 年次	- 学校の中核として、部活動や学校行事に主体的に取り組むよう支援する。 - 探究活動を通して知的探究心を刺激し、進路意識を育成する。	- 学期毎の振り返りシートによる調査「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が90%以上になることを目指す。(1年3学期 89.2%) - 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が90%以上になることを目指す。(昨年全体 88%)	「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の肯定的な回答は85.8% - 瀬戸高祭では、各クラス・ブロックで、よく工夫し、協力する姿勢が見られた。修学旅行においても、協力して行事に臨めるようにしたい。	C	「部活動や学校行事に主体的に参加することができましたか。」の肯定的な回答は87.1%で、2学期より微増した。 - 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の肯定的な評価が91%であった。	B
3 年次	- 大いに学び、大いに楽しめるよう部活動、学校行事に全力で取り組ませる。自分の意見を持ち、自ら動くことができるように支援する。 - 進路探究の時間や担任面談等を利用して進路情報を提供し、進路決定できるように促す。担任面談の結果をClassiの「生徒カルテ」に記録し、年次団全体での情報共有を図る。	- 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「学校行事に全力で取り組むことができたか。」の質問項目において、肯定的回答が増加することを目指す。(2年3学期 89.9%) - 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を維持する。(1年時 84%)	- 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「授業、部活動、学校行事に全力で取り組むことができたか。」の質問項目において、肯定的な回答は88.1%で、昨年度末よりやや減少した。 - 進路が決定した生徒の中には授業に対してやや消極的になっている様子も見受けられるが、ほとんどの生徒は、部活動を引退した6月以降、授業にも学校行事にも今まで以上に積極的に参加できている。各クラス・ブロックで協力しながら準備や本番に臨み、充実感をもって笑顔で最後の瀬戸高祭を終えることができた。 - Classiの「生徒カルテ」を活用しながら、情報共有を図ることができた。	B	- 具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「授業、部活動、学校行事に全力で取り組むことができたか。」の質問項目において、肯定的な回答は90.7%で、昨年度末よりやや増加した。瀬戸高祭や球技大会など、学習以外の学校行事にも全力で取り組むことができた。また、「大いに楽しみ、大いに学ぶ、メリハリを付けた行動をすることができましたか。」という質問項目の肯定的な回答も88.6%と高校生活最後の年を大いに楽しむことができていた。 - 学校改善アンケート「部活動、各種委員会活動、瀬戸高祭、球技大会など生徒会活動に積極的に取り組んでいますか。」の質問項目において肯定的評価は86%であった。 - Classiの「生徒カルテ」を活用しながら、情報共有を図ることができ、全年次の教員で進路指導に当たることができた。	A

教育DX	- 情報機器を導入し、その活用ができるようガイダンスや教員研修などを行う。 - ICT機器の整備、オンライン学習コンテンツの導入、デジタル教材の活用などを行う。	- 教員生徒のニーズにあったICT機器を整備など環境改善することによって、生徒の主体的な学びに貢献する。 - 数理データサイエンス分野の探究活動を促進し、社会の構成員として活躍したいと志す生徒が年度当初よりも増加する。	- ICT機器を整備など環境改善については、年度内導入に向けて順調に進行している。 - 生成AIを利用した探究学習の方法を指導した。Canvaの使用法や生成AIを活用したアプリ開発など、スキル向上を目指す取り組みを実施した。	B	- 多目的教室Ⅱや多目的教室Ⅲの整備を行い、3DプリンターやハイスペックPCなど導入を行った。生徒のニーズをアンケートで把握するなど必要な物品を購入できるように取り組んだ。 - オンライン教材やコンテンツの開発については外部企業と連携して今後はおこなっていきたい。	A

<評価基準> A：全て達成 B：全てのうち半数程度達成 C：Bに達しない

岡山県立瀬戸高等学校

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
③主体的に他者と関わり、健全で良好な人間関係を築き、その関係を基にした実践的なコミュニケーション能力の育成を行う。 (健康)	教務課	- ボランティアや外部交流につながる情報提供を随時行い、生徒が学校外とつながる機会を設ける。また多様な人々と積極的に交わる意識の高揚を促す。 - 授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で生徒同士が協同しあいながら主体的に学びあうことで、充実感や満足感が得られるようにする。	- 授業や総合的な探究の時間、ボランティア活動等で自ら学校外の人々と係わる機会を1人2回/年以上持つ。 - 学校改善アンケート(生徒対象)の「瀬戸高校で学ぶことに充実感や満足感を持っていますか」の質問項目において肯定的評価が85%以上(前年度83%)	- 夏季休業中の社会貢献活動(1年次)には、のべ9カ所に109名の生徒が参加した。 - 数少ない機会を利用して有意義な外部交流活動ができています。	B	- 夏冬季の休業中の社会貢献活動や中学校との生徒会・部活動等を通じた交流、総合的な探究の時間におけるフィールドワーク等で、学校外の人々と係わる機会が2回/年以上持っている。 2年次生の一部の有志生徒が、韓国のウンサン高等学校の生徒とオンラインを用いての交流ができた。 - 学校改善アンケートの「瀬戸高校で学ぶことに充実感や満足感を持っていますか」の肯定的評価は81%であった。	A	
	生徒課	- 挨拶運動や日常生活の中で、気持ちのよい挨拶ができるようにする。 - 制服を正しく着こなし、基本的な生活習慣(遅刻をしないなど)が確立できるようにする。 - 生徒が交通ルールを遵守するように指導する。	- 学校改善アンケート結果で、昨年度数値を上回ることを目指す。(生徒・教員70%以上、保護者50%以上)この2年、アンケートの保護者記述回答では、瀬戸高生はあいさつができる、できない、の両方の意見があるので、肯定的な意見を増やす。 - 教員の挨拶指導、生徒会、風紀交通委員会による挨拶運動の中で適宜注意を促す。毎朝など元気な挨拶の声を増やす。生徒のコミュニケーション能力の向上を目指す。 - 学期に2回程度、下校指導(1週間)を実施する。	「自ら挨拶・服装の着こなし・SNS使用の注意」を1学期の重点目標とした。校内ルールの遵守も含め、大半の生徒は評価できるが、積極的な挨拶・交通マナー・携帯電話の使用は、課題が残った。	B	学校改善アンケート結果では、「自らすすんであいさつできた」生徒79%(昨年75%)教員73%・保護者50%、服装・頭髪校則守れた生徒93%(96%)・教員73%・保護者75%、交通ルール守った97%(96%)携帯電話の節度ある使用ができた69%(74%)、という結果だった。例年通りの印象は拭えない。全体への啓発は勿論だが、学年・教科・学校行事・部同好会活動等様々な機会に指導・啓発する必要がある。数字以上にできていない肌感覚であった。	B	A
	進路指導課	- ひたぶるタイムがより協同的な取組となるように工夫し、クラス・学年、さらには学校外の人々と関わる機会をできるだけ多く設ける。 - ひたぶるタイムの活動を生徒自らの「キャリア・デザイン」の形成に繋げ、社会の一構成員としての自覚を持って行動できる力を育成する。	1・2年次生は、年次を越えてまたは年次全体・クラス全体での発表の機会を年2回は設ける。 1年次生は外部講師を招いての講演会を学期に2回開催する。 2年次生は、セト☆ラボの活動を通じて見出した研究課題をフィールドワーク等で深め、自身のキャリア・デザインの形成に効果的に結びつけていく。 - 学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度を昨年度(90%)より	7月に真夏のセト☆フェスで発表の機会を設けた。また教育DXの学びを取り入れた成果を発表した。 1学期に伝える力受けとる力つなげる力講演会、地域の方を囲む会を設け、外部講師による学びの深化をはかった。 1、2年次の「総合的な探究の時間」のカリキュラムに教育DXを計画的に組み入れ成果を得た。	A	12月にクリスマスのセト☆フェスを実施し、生徒の発表の機会を設けた。 - 全学年において探究の学びを積極的に「学びの年表」や「ひたぶるノート」に記録することができた。 1年次には岡山大学とSDGsの講演を設けた。 3年次は3年間の「ひたぶるノート」の蓄積を基に、志願理由書などの作成を通して、自らの進路について研鑽を深めた。 - 学校改善アンケート(生徒)における総探への積極度は昨年度より4%減の86%であった。来年度は教育DXとの関わりをさらに	B	

		高める。		深化させていきたい。		
厚生課	- 生徒の主体的な判断や安全意識の育成を図る。 - 救急法講習会の実施（進路選択の一助） - 悩みのある生徒・保護者への教育相談の充実を進める。	- 避難訓練を実施し、生徒自らが判断し危険を回避する能力を育てる。職員にも予測不能な災害に対応できる能力を積んでもらう。 - 希望者に対して、救急法講習会を実施し、学んだことを自分の人生に生かせるようにする。 - 外部の専門家（スクールワーカー）などの活用と連携を持ち、生徒や保護者の内面的なケアに努める。 「生徒朝礼連絡票」や「保健便り」を通して情報等を発信し、健康維持の啓発に努める。	- 避難訓練は地震を想定したものを9月末に実施し、教室内で机下で体を保護する形とし、マイタイムラインを作成予定。 - 救急法の講習会には9名の生徒が参加し、全員が救急救急員として認定された。 - 外部の専門家と連携し、生徒や保護者のケアに努めている。	B	- 避難訓練は、生徒のみで避難する場面を設定、初の試みであったが、生徒はよく対応していた。来年度は、実施時期を早めるよう検討したい。 - 保健室利用も多くあった。担任や教育相談、SSW、特別支援サポーターと連携し、対応を行った。次年度は特別支援の観点を更に強化し、生徒のコミュニケーション能力の育成を含めた支援を継続したい。 - 保健便りは瀬戸高生徒用ポータルを用い、ミニ情報を頻回数提供する形も取り入れた（DX化）。	A
1年次	自分から気持ちのよい挨拶をし、友人同士や先生との対話を大切にさせることで、生徒同士、そして先生と生徒のよりよい人間関係を作る。	- 学期毎の振り返りシートによる調査「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。 - 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において、肯定的回答が70%以上になることを目指す。	1学期振り返りシートによる調査「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」の肯定的回答が92.2%であった。授業の開始・終了の挨拶もよくできる。お互いに気持ちよく生活するため、この習慣はしっかりと継続していきたい。	A	2学期振り返りシートによる調査「自分から気持ちのこもった挨拶をすることができましたか。」の肯定的回答が92.6%であった。 - 学校改善アンケート 「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」の肯定的回答が77%、「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の肯定的回答が93%であった。 - 先生方の挨拶や服装などの指導を時を逃さずに適切かつ丁寧に指導していただいたおかげで、生徒たちは明朗かつ素直に育っている。 次年度以降もこの態度で生徒に接するようにしたい。	A
2年次	- 大きな声で、顔を見て挨拶するよう指導する。 - お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つよう指導する。	- 学期毎の振り返りシートによる調査「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか。」の質問項目において、肯定的回答が90%以上になることを目指す。（1年3学期 89.8%） - 学期毎の振り返りシートによる調査「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことができましたか」の質問項目において、肯定的回答が90%以上になることを目指す。（1年3学期 97.5%） - 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の質問項目において、肯定的回答が90%以上になることを目指す。（昨年全体 75%、96%）	「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか。」の肯定的回答は76.7% 「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことはできましたか。」の肯定的回答は96.2% - 瀬戸高祭や修学旅行などで居心地のよい集団作りをしていきたい。	B	「大きな声で、顔を見て挨拶できましたか。」の肯定的回答は80.6% 「お互いを尊重し、感謝の気持ちを持つことはできましたか。」の肯定的回答は97.5% - 学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的にあいさつをしていますか。」の肯定的回答は77%、「学校で先生や他の生徒を1人の人間として尊重していますか。」の肯定的回答は95%であった。 - 次年度も引き続き徳育を続けたい。	B

	3 年 次	・自分からすすんで、気持ちのよい挨拶をし、感謝や謝罪の気持ちを言葉にして相手に伝えるように指導する。 ・コミュニケーションを大切に、相手も自分も尊重するよう、機会あるたびに伝える。互いを思いやり、認め合い、励まし合いながら進路実現に向けて自走できるよう支援し、全員笑って卒業させる。	・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価が80%以上を目指す。(1年時 74% R5全年次75%) ・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にしている行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的評価90%以上を維持することを目指す。(2年3学期「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にすることができましたか。」93.5%)	・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にしている行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答は92.3%であった。 ・2学期は瀬戸高祭や球技大会などの学校行事もあり、年内入試や共通テストの出願など受験に関することも多くなっていく。互いを思いやり、温かい声かけができる集団になっていくように支援を続けたい。	A	・学校改善アンケート「登下校時や校内で、自分からすすんで積極的に挨拶をしていますか。」の質問項目において肯定的評価が81%であった。具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「感謝や謝罪の気持ちを言葉にして、相手に伝えることができましたか。」という質問項目の肯定的回答も97.9%であり、誰に対しても挨拶をすることや、感謝・謝罪の気持ちを言葉にするという社会人としてできてほしいことを身に付けてくれた。 ・具体的計画に関する学期毎の振り返りシートによる調査「お互いを尊重し、コミュニケーションを大切にしている行動することができましたか。」の質問項目において、肯定的回答は96.5%であり、1・2年次にも同様の質問項目があったが、これまでで最高の数値である。受験を控えている生徒が学習に集中できるよう、進路が既に決定した生徒も学習を続ける機会を用意したい。そして、お互いが刺激を与え合うなど、良好な人間関係を築き、実践的なコミュニケーション能力を身に付けられるよう支援していく。	A
	い じ め 対 策 委 員 会	・人権教育室、教育相談室などと連携をはかり、いじめの早期発見に努める。また人権教育講演会などを通して、人権・いじめに対する問題意識を高める。 ・スタンドバイの活用と、各学期アンケートを実施する。	・スタンドバイや各学期のアンケート結果をもとに、早期発見・解決に努め、いじめのない学校づくりを目指す。	・教員研修などで意識の向上を図った。朝礼や学年団会議、課長主任会議で生徒情報を共有できた。学習や人間関係に悩みのある生徒はいるが、スタンドバイや学期のアンケート結果も異常はない。	A	スタンドバイや各学期のアンケート結果など、特になかったが、SNS関係は心配している。さらに意識して、朝礼や学年団会議、課長主任会議、職員会議で生徒情報を共有したい。学習や人間関係に悩みのある生徒は、家庭・学校のみならず外部の機関とも連携して指導支援できる体制にしておく。	A

<評価基準> A：全て達成 B：全てのうち半数程度達成 C：Bに達しない

岡山県立瀬戸高等学校

学校経営目標	担当	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況	評価	最終達成状況	評価	総合
④郷土・地域の将来を考え、周囲と連携しながら行動する力と社会変革の担い手としてイノベーションを起こし、エージェンシーを発揮する力の育成を図る。	教務課	・オープンスクール、学校説明会、ホームページ等の広報活動を充実させ、瀬戸高校の魅力発信を強化する。 ・社会貢献活動・地域貢献活動に主体的に参加し、地域社会を担う一員としての自覚を促す。	・ホームページ更新数・アクセス数を前年度以上にする。 ・入学選抜において定員充足となる。 ・ブログの更新を教務課だけではなくすべての課で行えるようにし、学校全体で広報活動を担える体制をつくる。 ・学校改善アンケート(生徒対象)の「社会貢献活動(ボランティア活動)・地域貢献活動に積極的に取り組んでいますか」の質問項目において肯定的評価が70%以上(前年度61%)になる。	・ホームページ(ブログ)更新15回であった。 ・インスタグラムを再開した。投稿33回 ・校長を中心に課長主任の教員で中学校訪問29校を行った。	B	・ホームページ(ブログ)更新数22回、アクセス数1日平均648回(12月31日現在)、インスタグラム投稿42回。 ・学校改善アンケートの「社会貢献活動(ボランティア活動)に積極的に取り組んでいますか」の肯定的評価は58%で昨年度より少し減少した。 ・ブログの更新の課を越えた取り組みについて、教務課で音頭を取りながら更に広げていきたい。	B	B
	厚生	・校外ボランティア活動の推進を進める。	・瀬戸町江西学区の防災キャンプや、県教委が主催する防災関連の行事	・今年度は瀬戸町公民館の防災キャンプには不参加。生徒のボランティア活動	B	・今年度は12月に社会貢献活動として、地域の清掃活動を行った。更には、ボランティア等	A	A

(協調)	課		に生徒が参加し、救急法や防災に関係する学習内容を伝える。また、教員も関係する研修会に積極的に参加していく。	への積極的参加を促したい。		を通じた周囲との関わりの中で、地域の将来を担う意識を醸成したい。	
	全年次	課題解決型学習を推進することで、自分の頭で考え、自分の言葉で語り、自分の意志で行動できる生徒の育成を図る。	- これまで総合的な探究の時間を中心に行っている、各自やグループで問いを立てて、解決のために行動し、知り得たことや思考を外化するというプロセスを、一層推進するとともに教科学習や特別活動等へも生かし、生徒自身が成長を自覚できるよう支援する。 「総合的な探究の時間【ひたぶるタイム】に積極的に取り組んでいますか」肯定的評価90%以上（前年度90%）になる。	これまでの総合的な探究の時間のカリキュラムに、DXハイスクールの研修イベントを取り入れた年間計画を作成して進めることができた。DXで得た知識技能が各自やグループでの探究の深化につながっている。今後は教科DXの研修も始まるので、生成AIを活用した教科指導の深化を期待する。	B	- 総合的な探究の時間【ひたぶるタイム】に積極的に取り組んでいますか」肯定的評価85%となった。（前年度90%） - DXハイスクールとしての取組により、生徒が生成AIと共創しながら、探究活動を深めていく姿が見られた。 - これまでのフィールドワークによる探究活動は続けながら、集まった情報を整理分析して、探究を深めるという段階にこれまで以上の取組成果が見られた。	B
	教職員	教職員一人ひとりの仕事・生活両面の充実を図り、安心して業務を担い、学び合い、協働しながら教育活動の改善や向上に努め、生徒の成長を支援する。	- 時間外在校等時間が恒常的に多くなることを避け、限られた時間・労力の中で業務を遂行できるような意識変革と業務整理、効率化を推進する。 - 各業務の進め方や意義、見通しなどについて共通理解を持って協働的に進めることができるよう、職員間の対話や同僚性を大切にする。	- 時間外在校等時間（平均）は、昨年度に比べ、微減の状態である。しかし、月80時間以上となるものもあり、業務量の平準化が図れていない。 - DX等初めての取り組みも多く、改めて職員間の共通理解の重要性を知る場面があった。現在は、各部署での気づきから声が上がリ、確認や共有する形ができており、対話や同僚性により新しい取り組みも順調に進んでいる。	B	- 時間外在校等時間（平均）は、減少している。（4月から12月平均 R5:34.5時間 →R6 31.5時間） - 定時退校日の設定等、効果があった取り組みもできた。 - 業務量の平準化を図るべく、各分掌内での、事業の精選の視点も必要である。 - 職員室内の配置変えから、1年間を経て、今後についても検討していきたい。今後も対話や同僚性を大切に、Well-beingな職場環境に努めていきたい。	B